



■ 明治大学マンドリン倶楽部演奏会 チケット発売中!

懐かしく、親しみやすい音色のマンドリン。明治大学マンドリン倶楽部の演奏を存分にお楽しみください。

日時 3月2日(休) 18:30開演 (18:00開場)

場所 コスモホール (情報文化センター)

ゲスト 萩原かおり

入場料 【全席自由】2,500円 (当日は各500円増し) ★お得なセット券を発売しています。

・2枚セット 4,500円 ・3枚セット 6,000円

チケット販売場所 情報文化センター、文化会館、市民会館、ミリカホール、平惣書店ほか

問い合わせは 情報文化センター (☎44-5000) へ

■ スターダスト☆レビュー35周年記念ツアー 「スタ★レビ」 チケット発売中!

日時 2月25日(土) 17:30開演 (17:00開場)

場所 市民会館

入場料 【全席指定】6,700円 ※未就学児の入場はご遠慮ください。

チケット販売場所 市民会館ほか

問い合わせは 市民会館 (☎22-7000) へ



「どんぐりマスケットを作る」 (無料)

内容 どんぐりを使って、マスケットを作ります。子ども向けの簡単な工作です。

日時 2月11日(木) 午前10時30分〜正午 午後1時30分〜3時

参加方法 予約不要。当日、実施時間内にお越しください。

デジタルプラネタリウム (無料)

土、日曜、祝日の午後1時30分、3時から実施。

2月のテーマ 「今夜の星々と金星のお話」

冬の代表的な星座の紹介と、現在西の空に明るく輝いている金星について説明します。2月26日(日)まで。

夜間天体観望会 (有料・要予約)

実施日時 毎週土曜日の午後6時、7時、8時から(1日3回)

参加料 大人300円、高校生250円、小中学生200円、幼児無料

参加される場合は、寒い時期ですのでしっかりと防寒をしてお越しください。

おもしろ科学実験 (無料)

土、日曜日(11日は除く)の午前11時、午後2時20分から実施。

2月の予定

- 4日(出) 重心の不思議2
- 5日(日) 圧電素子を使って発電しよう
- 12日(日) 水を吸うプラスチック
- 18日(土) 暗闇に光る物体!ブラックライトの世界
- 19日(日) 水を科学しよう
- 25日(土) アイの科学・深い青を求めて
- 26日(日) 静電気の不思議4

問い合わせは 科学センター (☎42-1600) へ

2月の休館日 6日(月)、13日(月)、20日(月)、27日(月)

■ 発掘された古代の朱 ミニ展示会 「阿南市の赤色顔料採掘遺跡」

阿南市には弥生時代末から古墳時代初頭にかけて、辰砂といわれている赤色顔料を採掘していた全国で唯一の遺跡「若杉山遺跡」があります。その他にも赤色顔料を採掘していた遺跡6カ所が確認されています。これらの遺跡から発見された遺物の展示会を開催しますので、ぜひご覧ください。

日時 2月26日(日)まで 9:00~17:00 ※水曜日休館

場所 文化会館(ラウンジ)

入場料 無料

問い合わせは 文化振興課 (☎22-1798) へ

■ 夢ホール ホワイエコンサート コンサールプリコヴェーノ 木管五重奏 チケット発売中!

陽射しあふれるホワイエで、土曜の午後のひと時を、音楽とお茶でおくつろぎください。

日時 3月25日(出) 14:00開演

場所 夢ホール(文化会館)

出演 鈴江早都子、五藤千奈、井出端 聡、川人雅音、佐山香百合

入場料 500円(ワンドリンク付き) 仲良しチケット(2人以上:1人につき400円)は前売りのみの取扱い。電話予約可能。

※小学生未満は入場無料

チケット販売場所 文化会館

問い合わせは 文化会館 (☎21-0808) へ



阿南市の文化財

阿南市文化財保護審議会

会長 湯 浅 良 幸

阿波の藩札(十二)

前回、金銀包役を紹介した。続けよう。

銀札場手代

金銀包役の下役。上納された藩札または金銀を受け入れ、鑑定を実施した後、包装を行った。

それぞれの役人は責任の所在を明らかにするため必ず実印を押した。つまり、担当者の実印を押していないものは無効とされた。定員は八名。

座本手代

八名。座本は初期銀札場の引受人であり、同時に出納長(収入役)の役目を果たした。

藩札及び銀札の出納はすべて座本人を通じて行われた。しかし、膨大な量のため実務は座本手代が行った。座本手代の他、次の係があった。

- 一、町廻り手代二名
- 一、御土蔵番 御鉄炮者六名
- 一、鉄よみ 定役人四名
- 一、小夫 御掃除之者七名

これらの他、銀札及び金銀の勘定に当たる勘定役、金銀を計量する天秤役。その他、多勢の小役人がいた。

一、南北六カ所銀札場手代三名あて。地方銀札場へそれぞれ三名の手代が派遣され奉行を補佐した。前述のように奉行は月交替で受け方・払い方の事務を分担した。

さらに六カ所銀札場へ番人として御鉄炮之者三名あて配置した。

判摺人

御鉄炮之者、定役人をもって当てた。仕事量の多い時には必要に応じて町人を雇った。

判摺人は銀札製造工。つまり印刷工である。通常鉄炮組の子弟を当てたが、前述のように町人を雇うこともあった。

記録によると

- 一、天和元年、銀札場座本人魚屋長左衛門、寺沢六右衛門二被仰付候



福山藩銀三匁札

参考 湯浅良幸著 『阿波貨幣史』 (続く)